

別記第2号様式

平成15年度中間評価調査書

機関名 アイヌ民族文化研究センター

整理番号	1	研究課題名	「久保寺逸彦文庫」中の写真資料に見るアイヌ社会の変遷に関する調査研究				
事業区分	重点領域・一般試験等 一般試験	研究区分	研究	試験	調査	分析	各種施策等との関連性
共同研究機関 (協力機関)							第3次北海道長期総合計画 大項目：だれもが安心して暮らせる住み良い社会を形成する。 中項目：アイヌの人たちの民族としての誇りが尊重され地位の向上が図られる社会の実現 目 標：アイヌ文化の保存振興とアイヌの人たちに対する理解の促進
研究期間及び 所要見込額(千円)	14年度～16年度	前年度以前	当年度	翌年度以降	全体所要額		
		(282) (282)	(169) (169)	(115) (115)	(一財) 566 566		
研究の概要							
<p>研究背景 研究センターが所蔵する「久保寺逸彦文庫」には、1934(昭和9)年から1970(昭和45)年にかけて久保寺逸彦氏が撮影した写真資料が多数含まれおり、その撮影時期は(1)1934年～36年、(2)1952年～54年、(3)1967年～70年の3時期に分類できる。この写真資料は、研究者が記録したアイヌ文化関係の映像記録としては最も古いものの一つである。また、アイヌ文化の記録を目的に撮影された貴重なものであるが、撮影者の久保寺氏もアイヌ文化研究では用いなかったものや、撮影背景などを記録していないものが多数含まれていることから、資料の利用や研究を進めるためには撮影背景などを解明することが課題となっている。</p> <p>研究目的 ・昭和9年から、ほぼ20年おきに北海道各地でアイヌ文化を記録した写真内容を分析し、当時のアイヌ社会の様相を明らかにするとともに、資料として利用しやすくする。 ・久保寺氏の研究の事績の一端をたどることで、氏が収集したアイヌ文化関係資料の成立過程を明らかにする。</p> <p>研究内容 当時の集落の様相(建物・作物・衣服・儀式等)を分析し、各時代毎に様相の特徴を明らかにする。</p> <p>年次別目標 分析資料数：約800点 平成14年度：集落の様相(住宅等の建築物・作物等) 平成15年度：衣服の様相(盛装) 平成16年度：儀式の様相(内容等)、補足調査、取りまとめ</p> <p>研究計画の適切性 センター資料の整理と平行して内容分析を進めており、分析資料点数、期間とも妥当である。</p>							
							直近の研究課題評価結果 平成13年度 事前評価 【自己評価】 (A)・B・C 【総合評価】 (A)・B・C
研究の進捗状況							
<p>研究計画に照らした進捗状況・目標達成度など 平成14年度：集落の様相 ・1934(昭和9)～1936(昭和11)年にかけて、サハリンや北海道(日高・道東)の各地で撮影した写真の撮影地の確認作業を行った。 ・撮影当時を知る人たちから聞き取り調査を行った。その結果、分析予定資料の約半数について、撮影地などを同定した。</p> <p>年次別実績 平成14年度：サハリン、胆振、日高地方の集落等の確認</p>							
							進捗度・目標達成度 (a)・b・c
今後の見通し							
<p>研究開始後の事情変更の有無 なし</p> <p>研究手法・資源配分の見直しの必要性 当初の計画通り実施しており、調査地、回数ともに変更の必要がない。</p> <p>期待される成果とその実現可能性、成果の有益性・活用可能性 ・アイヌ文化の時代差・地域差を解明することでアイヌ社会の変遷を明らかにすることができる。 ・アイヌ文化に関する新資料の紹介となる。 ・伝統行事等の学習資料となる。</p>							
							期間の妥当性 (a)・b・c
							経費の妥当性 (a)・b・c
							実現の可能性 (a)・b・c
							活用の可能性 (a)・b・c
【自己評価】	【意見】						
(A)・B・C	アイヌ社会の変遷を明らかにする貴重な資料である「久保寺逸彦文庫」の写真資料を用いて集落、儀式、衣服などの様相を分析し、資料として利用しやすくする当課題は、当研究センターの責務であり、引き続き研究に取り組む必要がある。						
【総合評価】	【意見】						
(A)・B・C	北海道を実地調査し、調査時に撮影した多数の写真資料からアイヌ社会の変遷を明らかにするもので、地域史・民族史の基礎資料としての活用も図られることから引き続き優先的に取り組む必要がある。						

(A) 今後十分な研究成果が期待でき、優先的に取り組む必要がある
(B) 今後一定の研究成果が期待でき、継続して取り組む必要がある
(C) 今後の見通し等に問題があり、中止を含めた抜本的な見直しが必要である

(a) 極めて高い、適切である
(b) 高い、概ね適切である
(c) 低い、改善の余地がある